

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大東市立南郷中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	22
生徒数	98	114	97	1	310	

研究の概要

1. 研究主題

教科の特性を活かし、個に応じた多様な指導方法及び指導体制のあり方を探る。
学習意欲を高めるための学習集団のあり方を探る。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 2年生・数学
系統的な積み上げを要する教科であり、生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 2, 3年生・英語
これまでの研究成果と生徒に対する実態分析の結果から、興味・関心や習熟の程度に応じた授業方法等の研究に取り組むため。
- ・ 2, 3年生・理科
学校として、当該教科に関するこれまでの研究実績を発展させるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「基礎・基本を身につけ、学習意欲を高める個に応じた指導方法・指導形態の実現のために」 - 少人数指導及び2人制授業等をどう進めるか -</p> <p>研究の見通し 習熟度別及び課題別の授業を実施することにより、学習意欲・効果を高めることができると考える。</p> <p>研究の内容・方法 系統的な積み上げを要する教科での習熟度に応じた指導を実践するため、補充的・発展的な課題の指導方法及び教材開発を研究する。 学習意欲と学習効果を高めるための指導形態（習熟度別・課題別少人数授業及び2人制授業など）について研究し、教材・教具の開発に努める。 各教科・各コースの授業の内容・進め方や学習集団のあり方等について交流し、課題追求の全体化を図る。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「仲間の中で、生徒一人一人が自ら学ぶ力を身につける学習指導及び学習集団のあり方」 - 生徒一人一人が自分の課題を認識し、解決に向かう方法を身につけるための指導方法（学習サイクル等）や主体的な学習意欲を高めるための学習環境の工夫・改善 -</p> <p>研究の見通し 各教科の評価規準・めあてを明確にし、生徒一人一人の自己評価（「問い返し」「振り返り」等）への指導援助の工夫をすることによって、課題解決に向かう学習サイクルの定着と学習意欲の向上が図れると考える。</p>
--------	---

研究の内容・方法

系統的な積み上げを要する教科での習熟度に応じた指導を実践するため、補足的・発展的な課題の指導方法及び教材開発について研究する。学習意欲と学習効果を高めるための指導形態（習熟度別・課題別少人数授業及びグループ学習等）についてさらに研究を深め、知識・方法を覚えさせるだけでなく、トライ&エラーの試行錯誤を通じて答えを導く指導法の研究や教材・教具の開発に努める。

各教科・各コースの授業のめあて・進め方を明確にし、それをもとに生徒が主体的に学び合える学習集団のあり方等について交流する。そして、教科担当者と教科係（生徒）との関わりを通して、課題追求の全体化を図る。

学習効果を生む「学習サイクル」や試行錯誤の過程を評価する安心できる学びの環境をつくり上げるために、冒険教育（体験学習）のプログラムを通じて体験的に身につけさせる。

(3) 研究推進体制

フロンティアスクールとしての実践研究を推進する中核として、フロンティア推進委員会を校長、教頭、教務、英語・数学・理科の代表で組織している。公開授業、研究会等の振り返りを積極的にを行い、今後の計画・研究の進め方について検討している。また、フロンティアティーチャーを学習指導部の部長として位置づけ、教科主任会や学習指導部会等を通じて実践研究を学校全体の取組へと広げる役割を担っている。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

年度末には、各教科での基礎基本の定着度を定期・実力テストや市の学力実態調査で分析するとともに、学習への意欲度や授業方法への満足度等をアンケート調査で分析する準備をしている。ただし、これまでに実施した習熟度別・課題別授業についてのアンケート等の調査結果では、7割～8割以上の高い満足度を生徒たちは示している。それは授業への参加度や積極的な質問、宿題などの提出率に現れている。また、理科においては多様な生徒の活躍（特に実験・実習時）を通じてより思考を深めることができている。そして、数学の定期テスト等の分析結果を1年次と比べて見ると、若干ではあるが、ヒストグラフが高得点の方へ階段状分布するようになっている。

2. 今後の課題

各教科で単元や時間毎の「めあて・ねらい」を明確にし、生徒一人一人の自己評価（「問い返し」「振り返り」等による自己の課題の明確化）に対する指導援助の方法を工夫する。
学習意欲のさらなる向上に向け、課題解決に向かう「学習サイクル」の定着と学習集団のあり方を工夫する
教師間の交流など取り組みの連携を密にし、全体化を進めるとともに、家庭学習の定着を図るため家庭との連携策を工夫する。

学力把握のための学校としての取組

習熟度別・課題別少人数授業では、毎時間きめ細かな指導・対応が可能になり、生徒一人一人の学習のつまづき等が把握しやすく、一人一人に応じた課題を提起することができた。全体的な学習状況の変容を捉えるために、年度末にはアンケート調査を実施し、指導形態・方法等の工夫による生徒の学習意欲や満足度等の変化をとらえることにしている。また、各テストの度数分布を綿密に収集し、基礎基本の定着度を調査できるよう資料の準備を進めている。
また、市教委の学力実態調査をも有効に活用していく。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

「公開授業」 H15年6月18日(水)、大東市立南郷中学校
北・中・南河内地区教育関係者、事業の普及と課題追求
これまでは本事業の趣旨・内容等について「学校だより」を作成してきた
が、現在HP作成の準備をしている。
各研究会、協議会へ参加し、自校の取り組みを報告する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無